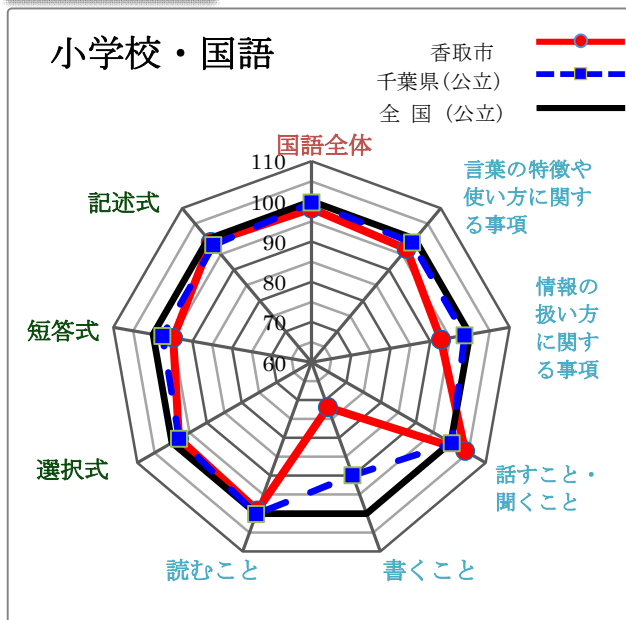


(2) 教科についての傾向と課題

※全国（公立）の平均正答率を100として、千葉県（公立）、香取市の平均正答率を相対的に表したグラフです。

小学校・国語

傾向と課題



内容別では、「話すこと・聞くこと」「読むこと」が全国平均を上回りましたが、「言葉の特徴や使い方に関する事項」「情報の扱い方に関する事項」「書くこと」は全国平均を下回っています。特に「書くこと」では、全国平均を100とした場合、香取市が71.9となる結果でした。

問題形式別では、「選択式」「短答式」「記述式」のすべてで全国平均には届かなかったものの、ほぼ同程度といえる結果でした。課題であった「記述式」に改善の傾向が見られます。

課題が見られた主な問題

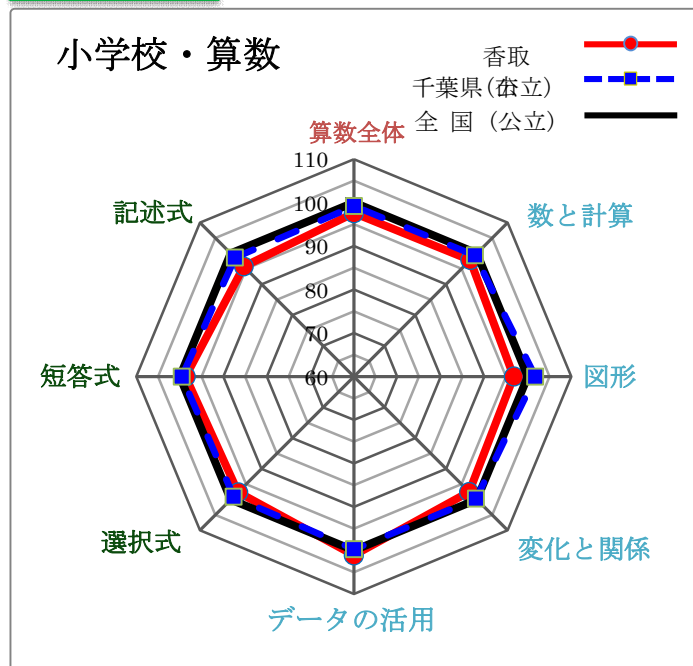
● 国語 1 二	図表やグラフなどを用いて、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができるかどうかをみる 【書くこと、記述式】 [香取市 19.2% 千葉県(公立)24.0% 全国(公立)26.7%]
● 国語 1 一	原因と結果など情報と情報との関係について理解しているかどうかをみる 【情報の扱い方に関する事項、選択式】 [香取市 59.4% 千葉県(公立)63.2% 全国(公立)64.7%]
● 国語 2 三	情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使うことができるかどうかをみる 【情報の扱い方に関する事項、選択式】 [香取市 58.2% 千葉県(公立)61.9% 全国(公立)62.0%]

力を入れたい学習

- 図表やグラフの特徴、優れている点等について、他教科等と関連して指導すると効果的である。また、推敲の際は、図表やグラフなどの用い方は適切か、文章で説明を加えた方が分かりやすい部分はないか、といった観点で見直す。児童の学習状況に応じて、教師が図表やグラフを用いたモデルとなる文章を提示することも考えられる。
- 情報を整理する場面では、必要な情報に印を付けたり、情報と情報を矢印でつないだり、表を用いてまとめたりするなどして、情報と情報との関係を視覚的につないだりすることができるとう効果的である。また、情報を整理する際には、ICT 機器を活用すると、編集したり視覚的に捉えたりしやすくなる。

小学校・算数

傾向と課題



「数と計算」「図形」「変化と関係」の領域で、全国平均にはわずかに届きませんでした。ほぼ同程度といえる結果でした。「データの活用」領域は全国平均を上回りました。

問題形式別でも、「選択式」「短答式」「記述式」のすべてにおいて、全国平均とほぼ同程度といえる結果でした。これまで「記述式」が大きな課題となっていました。改善の傾向が見られました。

課題が見られた主な問題

● 算数4(1)	百分率で表された割合について理解しているかどうかをみる 【変化と関係、選択式】 [香取市 39.7% 千葉県(公立)45.8% 全国(公立)46.0%]
● 算数3(1)	() を用いた式や、加法と乗法の混合した式を場面と関連付けて読み取ることができるかどうかをみる 【数と計算、選択式】 [香取市 65.0% 千葉県(公立)69.4% 全国(公立)70.3%]
● 算数2(4)	高さが等しい三角形について、底辺と面積の関係を基に面積の大小を判断し、その理由を言葉や数を用いて記述できるかどうかをみる 【図形、記述式】 [香取市 16.9% 千葉県(公立)19.9% 全国(公立)20.8%]

力を入れた学習

- 具体的な数量の関係に基づいて理解できるようにすることが重要である。例えば、百分率で表された割合から基準量を自ら決めて、それに対する比較量を捉える活動が考えられる。その際、図表等を用いて視覚的に捉えると効果的である。
- 式を用いて数量の関係を表したり、具体的な場面と関連付けて式を読んだりすることが重要である。例えば、2通りの式を具体的な場面と結び付けて、式の中の数値や演算は何を表しているかを明らかにして説明する活動が考えられる。
- 底辺と高さの関係に着目し、図形の面積の求め方から面積の大小を判断できるようにすることが重要である。例えば、平行な直線にはさまれた底辺が等しい2つの平行四辺形や、2つの三角形の面積を比べる活動が考えられる。さらに、図形の面積を求めるために、図形のどの部分の長さが必要であるか判断する活動も考えられる。